

能登半島地震で変化する生活

2024年元日の激震で大きな被害を受けた石川県の奥能登4市町（輪島市、珠洲（すず）市、能登町、穴水町）で、人口流出が急速に進んでいる。人口計6万人弱の4市町で、1～3月の転出超過は月を追うごとに増え、計1582人。前年同期の3・8倍だ。再び人が戻り、コミュニティーを再生・維持することはできるのか。復興は時間との勝負でもある。（読売新聞 2024年4月3日掲載）

金沢市へ移住

珠洲市飯田町で整体院を営んでいた小家伸吾さん（40）は地元を離れることを決めた。市内の自宅は地震で崩れた裏山の土砂がなだれ込んで全壊。3歳の長男が鎖骨を折る重傷を負った。整体院も大きな被害を受け、3月から京都で兄（42）が営む整体院を手伝っている。夏には妻（40）の実家がある金沢市に親子4人で移り住み、整体院を開くつもりだ。



悩んだ末の決断

悩んだ末の決断だ。母親の病気を機に県外から珠洲市に戻り、「奥能登地域の健康を支えたい」と2017年に開業。常連客もついた。ただ、市外へ避難した住民も多く、整体院の経営が成り立つか分からない。「子供もまだ小さいし、余震も怖いしね」。妻の言葉にも背中を押された。

地震前から過疎化進行

住まいとなりわいが確保できなければ、子育て世代の流出は続く恐れがある。奥能登4市町の過疎化は地震前から深刻だった。国勢調査で2010年から2020年の人口変化を比較すると、全国の減少率1・5%、県全体3・2%に対し、輪島市17・6%、珠洲市は20・7%だった。高齢化率（65歳以上の割合）も4市町は50%前後で、全国平均より約20ポイント高い。

若い人ほど「働く場」が必要

東日本大震災の被災地でも人口減少は課題となっている。岩手県沿岸12市町村の2024年3月時点の人口は、2011年3月から23・1%減り、減少率は内陸部（10・3%）の2倍を超える。減少率33%の大槌町では、30歳未満が約45%減った。小笠原純一・町民課長は「若い人ほど働く場がないと戻れない。住まいや街の機能をもっと早く復興させる必要があった」と語る。

北陸学院キリスト教センター

(支援窓口) より紹介されました



北陸学院 キリスト教センター (支援窓口)

7時間・📍

【ハートフル❤️プロジェクト

平安女学院中高からの支援の報告】

京都のキリスト教学校のお仲間である平安女学院中学校・高等学校より、ご連絡をいただきました。

京都から被災地に思いを馳せながらも学校生活の合間にボランティアに向かうことはなかなか難しいこともあり、心配と悶々とした気持ちがあるとお気持ちとのことでした。

そのような中、

平安女学院中高ではUNESCOクラブというボランティアクラブがあり1月～3月期に募金活動をされました。UNESCOクラブはボランティア活動や防災学習に取り組む部活動で、前身は「東日本大震災被災地応援実行委員会」という課外活動の委員会でした(詳細:

<https://jh.heian.ac.jp/higashinihonhisaiichi>)。当時、東北の被災地のことを忘れないための「11円募金」として現在もほぼ毎月学校前で募金活動をおられます🌟

近年、日本各地、世界各地でも大変な自然災害が起こることがありますから、そちらの募金活動もして、赤十字やYMCAを通して支援したこともあるそうです。今回は生徒会・保護者会からの寄付と11円募金で集めて学院キリスト教センターに送っていただきました♡♡

あらためまして全国各地の皆様のお心を寄せていただいておりますこと、心から感謝もうしあげます!



UNESCOクラブ ボランティア部門 活動報告

4月20日(土)の晴天の下、8時30分に近鉄京都駅に中学1年から高校3年生までの部員が集合し、奈良方面のボランティア活動に参加しました。午前中は、当学院の古本チャプレンがおられる日本聖公会奈良基督教会をお訪ねして、古本靖久先生司式の礼拝をまもり、奈良の古刹興福寺に隣接する教会諸施設をご案内頂きました。午後からは、教会をあとにして奈良ゴミプロジェクトに参加、61名のボランティアの方々に交じり、行楽で賑わう奈良公園のゴミ拾いに参加し、交流の機会を得ることができました。



5・6月の活動予定

5/13: 防災袋詰め(第1弾)

5/14: 映画「すずめの戸締り」鑑賞

5/27: 5月定例会

6/21: 京都YWCA・同志社女子
中高合同ワークショップ

⇒生徒の皆さんはいつでも活動に参加できます。詳しくは部活連絡(ホワイトボード)を見てください。



奈良公園に家庭ごみを捨てていいのでしょうか??

